

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-256833
 (43)Date of publication of application.: 08.10.1996

(51)Int.Cl.

A45D 40/00

(21)Application number : 07-062291
 (22)Date of filing : 22.03.1995

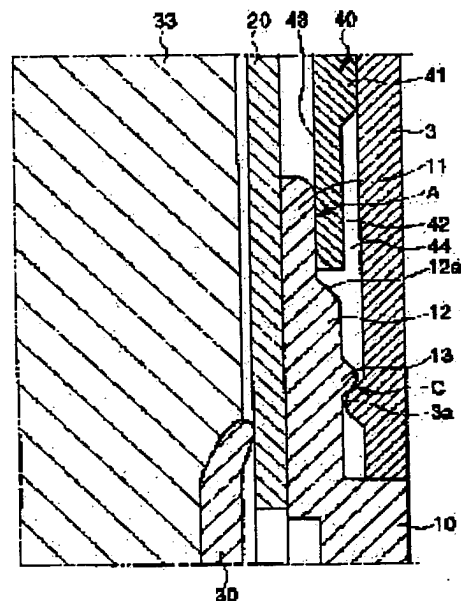
(71)Applicant : YOSHIDA KOGYO KK <YKK>
 (72)Inventor : IDESHITA HIROSHI
 YUZHARA YUKITOMO

(54) STICK-TYPE COSMETIC CASE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a stick-type cosmetic case in which a good airtight condition can be achieved by obtaining strong reaction force.

CONSTITUTION: A cylindrical insertion part 11, which is to be fitted into a cap 3, is formed at the upper part of the main cylinder 10, and a circular rib 13 is formed at the lower part of the main cylinder. A seal member 40 made of resin is attached along the inner wall of the cap 3, and a skirt-like thin insertion seal part 42 is formed from the position above the cylindrical insertion part 11. An inward projection part 3a, which is to be engaged with the circular rib 13 of the cylindrical insertion part 11, is formed on the inside surface of the cap 3, so that the sealing part A sealing between the cylindrical insertion part 11 and the insertion seal part 42 will not be affected by the engagement part C of the inward projection part 3a and the circular rib 13.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 31.01.2002
 [Date of sending the examiner's decision of rejection]
 [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
 [Date of final disposal for application]
 [Patent number] 3691104
 [Date of registration] 24.06.2005
 [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-256833

(43) 公開日 平成8年(1996)10月8日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 5 D 40/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 5 D 40/00

技術表示箇所

U

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平7-62291

(22) 出願日

平成7年(1995)3月22日

(71) 出願人

000160223

吉田工業株式会社

東京都墨田区立花5丁目29番10号

(72) 発明者

井手下 裕志

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

(72) 発明者

柚原 幸知

東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

(74) 代理人

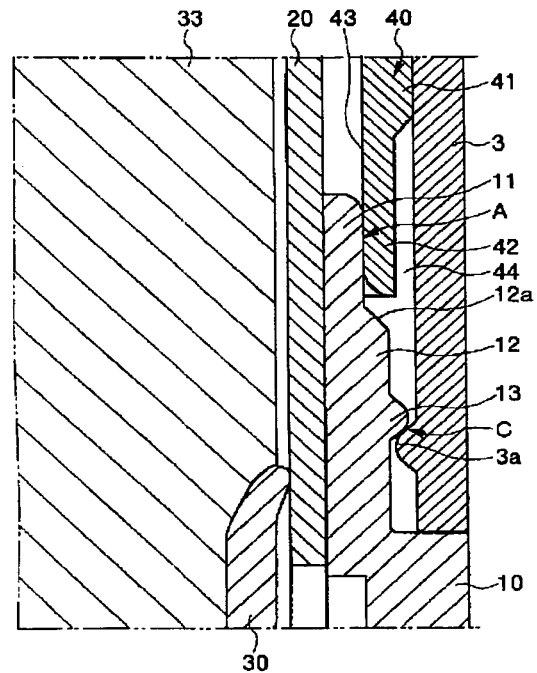
弁理士 一色 健輔 (外2名)

(54) 【発明の名称】 棒状化粧料容器

(57) 【要約】

【目的】 しっかりとした反力を得て良好な気密状態を得ることができる棒状化粧料容器を提供する。

【構成】 本体筒10には上部にキャップ3と嵌合される嵌合筒部11をまた下部に環状リブ13を形成し、前記キャップ3内には、その内面に沿って樹脂製のシール部材40を設け且つ嵌合筒部11よりも上方位置からスカート状に肉薄な嵌合シール部42を形成すると共に、前記キャップ3内の内面に前記嵌合筒部11の環状リブ13に係合する内向き突起3aを設け、嵌合筒部11と嵌合シール部42とのシール部分Aが、内向き突起3aと環状リブ13による嵌着部分Cの影響を受けないようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 本体筒内に身筒及び化粧料皿筒をこの順序で配置した筒状容器本体と、これに嵌装される筒状キャップとで構成される棒状化粧料容器において、前記本体筒には、その上部に該キャップと嵌合される嵌合筒部を形成すると共に、該嵌合筒部の外周下部に隆起部を形成してその周面に周方向に沿って環状リブを突出形成し、前記キャップ内には、その内面に沿って樹脂製のシール部材を設けると共に、該シール部材には、前記隆起部上方で前記嵌合筒部に当接する筒体状の肉薄な嵌合シール部を形成し、また前記キャップ内の内面には、前記嵌合筒部の環状リブに係合する係合部を設けたことを特徴とする棒状化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、キャップの嵌合構造に気密機能を備えた棒状化粧料容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般に、口紅容器のような棒状化粧料容器においては、揮発性化粧料の乾燥固化を防止するなどの観点から、キャップの嵌合係止機能と気密機能とを組み込むことが行われている。

【0003】 この種の棒状化粧料容器における気密構造としては、従来実公平 5-34579 号公報に開示されたものがある。これは、図 8 及び図 9 に示すように、筒状容器本体の外側に配置される中具筒 107 の嵌合部 107a に着脱自在に嵌合する筒状キャップ 113 の内側に、このキャップ 113 と同形状をなす樹脂製の帽体 114 を接着剤などの適宜の手段によって嵌着固定し、この帽体 114 の下部に内径拡張部 115 を形成して適度の弾力性を有する嵌合壁 114a を設け、この嵌合壁 114a とキャップ 113 との間に嵌合壁 114a の弾力性を助長するための間隙部 116 を介在せしめ、嵌合壁 114a の下部に外側に反り返りその先端がキャップ 113 の内壁面に接触する接片 114b を設けると共に、帽体 114 の嵌合壁 114a 内周面に突設した環状凸部 114c が中具筒 107 の外周面に密接し、また帽体 114 の嵌合壁 114a に形成した嵌合凹部 114d に中具筒 107 の外周面に突設した環状凸部 107c が密嵌係合するように構成したものである。なお、101 は袴筒、102 は螺旋筒、103 は螺旋溝、104 は身筒、105 は環状溝、106 は内周リブ、108 は化粧料皿、109 は環状リブ、110 は脚柱である。

【0004】 かかる構成の下では、キャップ 113 を被せて装着すると、帽体 114 の嵌合壁 114a が中具筒 107 の嵌合部 107a に嵌合し、この嵌合部 107a の外周面に帽体 114 の環状凸部 114c が密接すると共に、嵌合部 107a の外周面に突設した環状凸部 10

7c が帽体 114 の嵌合壁 114a に穿った環状凹部 114d に密嵌係合し、キャップ 113 の係止状態が確保されると共に、容器本体内に対する外気の侵入が阻止できるようになる。すなわち、中具筒 107 に対する環状凸部 114c の緊密な接触と、環状凹部 114d に対する環状凸部 107c の密嵌係合という、2箇所において気密に封止されるため、1箇所の場合に比べ、より良好な気密効果が得られる。

【0005】

10 【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来技術の場合、気密作用をもたらす押圧力は、嵌合壁 114a の下部に設けた接片 114b が外側に反り返りその先端がキャップ 113 の内周面に接触することによって確保される。つまり、環状凸部 114c と環状凹部 114d という 2つの接触箇所は、それから離れた接片 114b の箇所を反力点として、内側に向かう弾性復帰力をそれぞれの箇所を得るものであった。この場合、環状凸部 114c と環状凹部 114d という 2つの接触箇所においてもキャップ 113 側は空隙となっているので、環状凸部 114c 及び環状凹部 114d は弾力的に撓むこととなり、しっかりした反力を得ることができないおそれがある。このため、環状凸部 114c の嵌合部 107c に対する接触圧及び環状凹部 114d の環状突起 107c に対する接触圧を保持しておくことが難しいものであった。

【0006】 そこで本発明の目的は、上記課題を解決し、しっかりとした反力を得て良好な気密状態を得ることができる棒状化粧料容器を提供することにある。

【0007】

30 【課題を解決するための手段】 かかる目的を達成するために本発明に係る棒状化粧料容器は、本体筒内に身筒及び化粧料皿筒をこの順序で配置した筒状容器本体と、これに嵌装される筒状キャップとで構成される棒状化粧料容器において、前記本体筒には、その上部に該キャップと嵌合される嵌合筒部を形成すると共に、該嵌合筒部の外周下部に隆起部を形成してその周面に周方向に沿って環状リブを突出形成し、前記キャップ内には、その内面に沿って樹脂製のシール部材を設けると共に、該シール部材には、前記隆起部上方で前記嵌合筒部に当接する筒体状の肉薄な嵌合シール部を形成し、また前記キャップ内の内面には、前記嵌合筒部の環状リブに係合する係合部を設けたことを特徴とする。

【0008】

40 【作用】 上記構成を有する本発明の棒状化粧料容器によれば、本体筒の嵌合筒部に設けた環状リブを直接にキャップ内面の係合部に係合させて嵌着部分を構成し、また、キャップとは別個のシール部材から筒体状に肉薄な嵌合シール部を垂下させ、これを本体筒の嵌合筒部に密に圧接するように嵌装させてシール部分を構成して、筒状容器本体へのキャップの装着状態を得るようにしてい

る。従って、シール部分と嵌着部分とを別々に独立させて、嵌着部分のシール部分への影響を排除することができ、シール部分と嵌着部分とを機能的にも構造的にも離隔させて、相互に干渉しない構成を確保することができる。シール機能を確実に保証することができる。

【0009】

【実施例】以下、本発明を図示の実施例に基づいて説明する。図1及び図2において、棒状化粧料容器1は、筒状容器本体2と、これに装着される筒状のキャップ3とで主に構成される。この実施例の場合、キャップ3は合

成樹脂製であるが、金属製とすることもできる。
【0010】筒状容器本体2は、その外郭を形成する本体筒10と、この本体筒10の内側に配置された身筒20と、身筒20のさらに内側に配置された化粧料皿筒30とからなっている。

【0011】本体筒10の、キャップ3で被われる上方部分には、樹脂製の肉厚な嵌合筒部11が一体的に形成され、この嵌合筒部11にキャップ3が嵌合されるようになっている。またこの嵌合筒部11の外周面の中間部から下部にかけては肉厚に形成され、嵌合筒部11の外

周面から傾斜段差12aをもって隆起させた環状の隆起部12として形成されている。そして、この隆起部12の外周面には、その周方向に沿って一条の連続した環状

リブ13が突出形成されている。
【0012】化粧料皿筒30は、仕切壁31で上下に仕切られ、その上部が化粧料皿32として形成されて、この化粧料皿32に化粧料33が納められている。
【0013】この化粧料皿筒30の繰り上げ機構を構成するために、本体筒10の円筒状内周面には螺旋溝14が刻設されているとともに、他方化粧料皿筒30の下部

には、これより外方へ突出させて、係合突起34が形成されている。そして、この化粧料皿筒30の係合突起34は、身筒20に螺旋溝14の軸方向長さに対応させて形成したスリット21を貫通して、本体筒10の螺旋溝14内に係合している。
【0014】従って、本体筒10を身筒20に対して相対的に回転させると、図2に示すように、螺旋溝14に沿ってスリット21の上限位置まで係合突起34が上昇し、これにより化粧料皿筒30の化粧料33が本体筒10から突出するようになる。

【0015】一方、樹脂製キャップ3には、その内側下端に環状リブ13と係合する内向き突起3aが形成され、また、該キャップ3の内側には、更にその内面に沿って筒体状の樹脂製シール部材40が接着剤などの適宜手段によって嵌着固定されており、このシール部材40が、本体筒10の嵌合筒部11に対して嵌脱自在に嵌合して圧接するようになっている。

【0016】図1及び図3に示すように、このシール部材40は主に、キャップ3を本体筒10に装着した際に嵌合筒部11よりも上方に位置され、キャップ3の内周

面と嵌合筒部11の外周面との間の間隙幅よりも若干厚く形成された筒状の肉厚部41と、この肉厚部41下方の肉薄に形成された筒状の嵌合シール部42とを備えて構成されている。この嵌合シール部42は、肉厚部41から順次肉薄に、かつキャップ3内周面から離隔するように一連に形成されて、本体筒10の嵌合筒部11外周面と重なり合って当接するシール面43を有する。すなわち、この嵌合シール部42は、肉厚部41から下方に延在され且つ下端が開放された肉薄の筒体状に形成されており、その長さは、キャップ3を嵌装したとき図3の如くその下端が隆起部12の手前で終端するようにしてある。そして、肉厚部41に続く嵌合シール部42を下端が開放された肉薄の筒体状に形成したことにより、この嵌合シール部42の外周面とキャップ3の内周面との間には、嵌合シール部42が外方へ撓み得る間隙44が形成される。図3の実施例では、嵌合シール部42は、肉厚部41から直線的に垂下する筒体状に形成されているので、所定の距離に亘って嵌合筒部11外周面に圧接される。

【0017】キャップ3を筒状容器本体2に被せた際、上記嵌合筒部11の隆起部12外周面に設けた環状リブ13と、キャップ3の内周面に設けた内向き突起3aとは相互に嵌合し、嵌着部分Cとして機能する。すなわち、キャップ3の内向き突起3aは、嵌合筒部11の環状リブ13を乗り越え、この乗り越えによって内向き突起3aが環状リブ13に下側から係合することで、筒状容器本体2とキャップ3との嵌合状態を保持する。殊に一般的には、嵌合筒部11は樹脂材で形成され、またキャップ3は金属材で形成されるが、このような構成であるとキャップ3の装着の繰り返しで嵌合筒部11側が磨耗し易く、早期にガタを生じ易いが、本実施例では、キャップ3が合成樹脂製であるので、金属製の場合と異なり、当該嵌合部分にガタが発生する度合いを低減でき、長期的に安定した嵌合を得ることができる。

【0018】またシール部材40の嵌合シール部42は、嵌合筒部11の外周面に重なり合うことで、キャップ3と筒状容器本体2との間の気密を確保するシール部分Aとして機能する。

【0019】このような構成によれば、シール部分Aと嵌着部分Cとを別々に独立させることができる。すなわち、本体筒10の嵌合筒部11に設けた環状リブ13を直接にキャップ3の内周面下部の内向き突起3aに係合させて嵌着部分Cを構成し、また、嵌合シール部42を、キャップ3とは別個のシール部材40から筒体状に垂下させ、これを本体筒10の嵌合筒部11に密に圧接するように嵌装させてシール部分Aを構成して、筒状容器本体2へのキャップ3の装着状態を得るようにしている。従って嵌着部分Cのシール部分Aへの影響を排除することができ、シール部分Aと嵌着部分Cとを機能的にも構造的にも離隔させて、相互に干渉しない構成を確保

でき、シール機能を確実に保証することができる。よって、シール部分 A におけるシール作用としては、従来のようにシール部分と嵌着部分とが互いに影響し合うおそれのある構成（図 9 参照）と比べ、嵌合シール部 4 2 が嵌合筒部 1 1 の外周面に接触する当接力を大きく確保することができ、また長期に亘って良好なシール性能を確保することができる。

【0020】上記実施例では、キャップ 3 内のシール部材 4 0 における嵌合シール部 4 2 のシール面 4 3 を、肉厚部 4 1 から直線的に垂下する筒体状に形成したが、同様な機能を発揮できる形態であれば、下端が開放された可撓性を有する筒体状に形成すればよく、図 4～図 6 に示すような形態とすることができる。

【0021】図 4 は、嵌合シール部 4 2 のシール面 4 3 を、本体筒 1 0 の嵌合筒部 1 1 の外周面に弾性的に圧接する側断面「く」の字状の筒体状に形成した実施例であり、キャップ 3 の装着時には、シール面 4 3 が嵌合筒部 1 1 の外周面に接触して半径方向外方へ僅かに撓み、その復帰力により気密な圧接力を得るように構成されている。

【0022】図 5 は、本体筒 1 0 の嵌合筒部 1 1 の外周面に裾拡がり状のテーパを形成すると共に、シール部材 4 0 の嵌合シール部 4 2 の内周面にもこれに対応する裾拡がり状のテーパを形成した実施例であり、キャップ 3 の装着時には、テーパの付いたシール面 4 3 が嵌合筒部 1 1 の外周テーパ面に面接触して半径方向外方へ僅かに撓み、その復帰力により気密な圧接力を得るように構成されている。

【0023】また、図 6 は、シール部材 4 0 の嵌合シール部 4 2 の内周面に周方向に沿って複数条の突部 4 5 を形成した実施例であり、キャップ 3 の装着時には、この突部 4 5 の付いたシール面 4 3 が嵌合筒部 1 1 の外周面に接触して半径方向外方へ僅かに撓み、その復帰力により気密な圧接力を得るように構成されている。

【0024】図 7 の実施例は、キャップ 3 の内周面に上記内向き突起 3 a を設ける代わりに、環状リブ 1 3 を受け入れる断面半円状の嵌合溝 4 6 を、周方向に設けたものである。

【0025】

【発明の効果】以上のように、本発明に係る棒状化粧品容器によれば、本体筒の嵌合筒部分に設けた環状リブを直接にキャップ内面の係合部に係合させて嵌着部分を構成し、また、キャップとは別個のシール部材から筒体状に肉薄な嵌合シール部を垂下させ、これを本体筒の嵌合筒部に密に圧接させてシール部分を構成して、筒状容器

本体へのキャップの装着状態を得ることができる。従って、シール部分と嵌着部分とを別々に独立させて、嵌着部分のシール部分への影響を排除することができ、シール部分と嵌着部分とを機能的にも構造的にも離隔させて、相互に干渉しない構成を確保することができ、シール機能を確実に保証することができる。よって、シール部分におけるシール作用としては、シール部分と嵌着部分とが互いに影響し合うおそれのある従来構成と比べ、嵌合シール部が嵌合筒部の外周面に接触する当接力を大きく確保することができ、また長期に亘って良好なシール性能を確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例に係る棒状化粧品容器を、キャップを装着した状態で示した正面及び断面図である。

【図 2】本発明の一実施例に係る棒状化粧品容器を、キャップを取り外した状態で示した正面及び断面図である。

【図 3】図 1 の要部拡大断面図である。

【図 4】本発明の変形実施例を示す要部拡大断面図である。

【図 5】本発明の他の変形実施例を示す要部拡大断面図である。

【図 6】本発明の更に他の変形実施例を示す要部拡大断面図である。

【図 7】本発明の別の実施例を示す要部拡大断面図である。

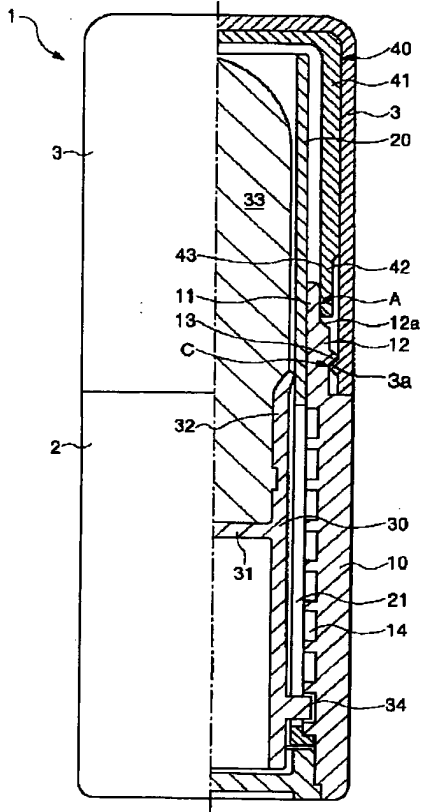
【図 8】従来の棒状化粧品容器の一例を示す断面図である。

【図 9】図 8 の一部拡大断面図である。

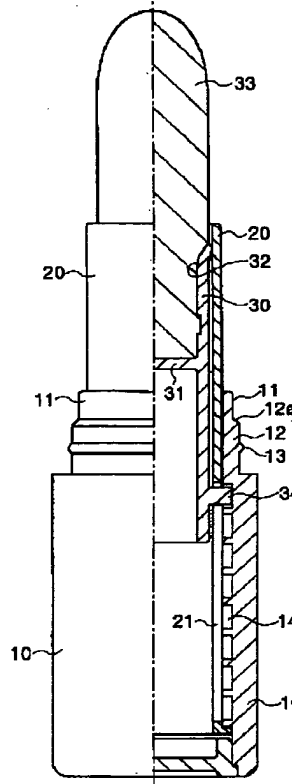
【符号の説明】

1 棒状化粧品容器	2 筒状容器本体
3 キャップ	3 a 内向き突起
1 0 本体筒	1 1 嵌合筒部
1 2 隆起部	1 2 a 傾斜段差
1 3 環状リブ	1 4 螺旋溝
2 0 身筒	2 1 スリット
3 0 化粧品血筒	3 1 仕切壁
3 2 化粧品皿	3 3 化粧品
3 4 係合突起	4 0 シール部材
4 1 肉厚部	4 2 嵌合シール部
4 3 シール面	4 4 間隙
4 5 突部	4 6 嵌合溝
A シール部分	C 嵌着部分

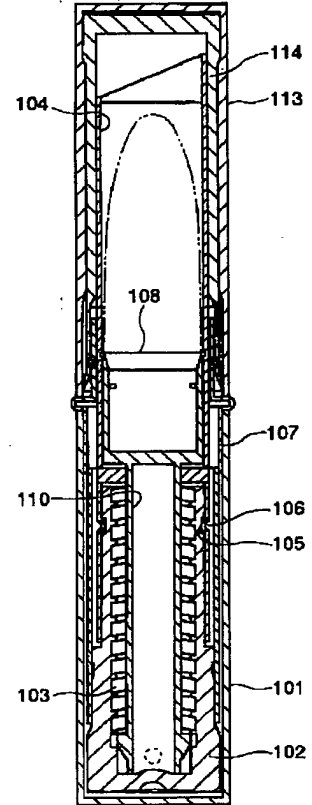
【図1】



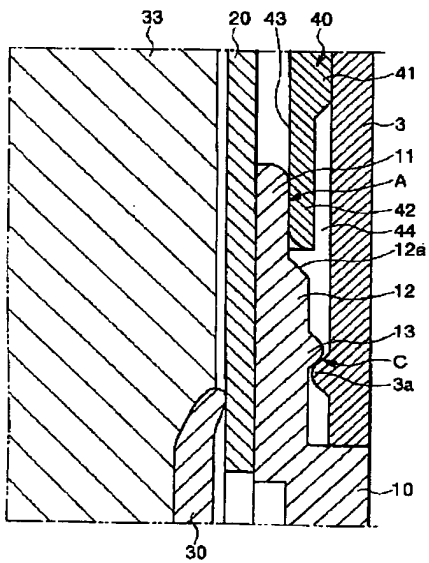
【図2】



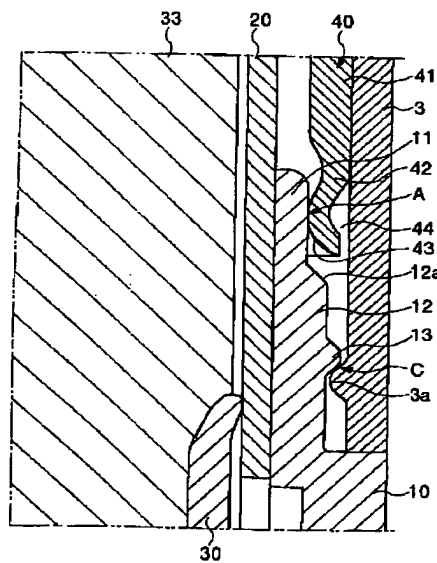
【図8】



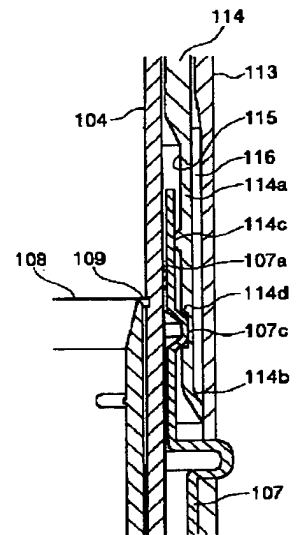
【図3】



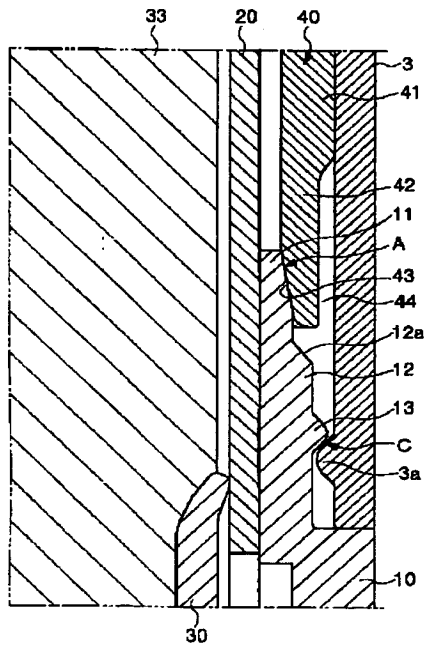
【図4】



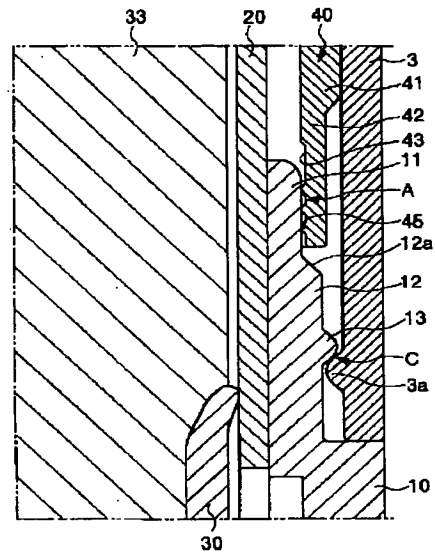
【図9】



【図5】



【図6】



【図7】

